

1. 食育から環境と未来を考える開成町を目指して

産業の発展に支えられ、私たちの食生活は非常に豊かになった。しかし、その豊かさの一方で、孤食や欠食といった食生活の問題が生じている。

特に孤食の増加は、「家族のコミュニケーションの場」という本来の食卓の役割を低下させていることは、子どもの心の問題にも影響している可能性があるとされている。

さらに今日では、「食と農の距離の乖離」が問題となっており、生産と消費の距離の乖離の中で、消費者の食や農に対する意識の薄れは食品ロスと呼ばれる食料廃棄の増加となつて現れている。

加えて、食料輸入の増加は日本農業への影響や食料自給率低下といった農業問題、フード・マイレージの増加や廃棄食品の処分にみられるような地球環境への負荷の問題にもつながる。

このように食をめぐる問題は、農業や環境にも深く関わっている。

このような諸課題は本町においても例外ではなく、これから社会の在り方について食を通じて考えることが重要であることから、次の事項を問う。

- ① 本町における子どもたちへの食育の現状と課題は。
- ② 家庭菜園や生ゴミ堆肥化など、身近な食のサイクルによる意識啓発をより一層推進する考えは。
- ③ 本町の『農』の分野をブランド化していく取り組みは。